

# 九州菜種の復活目指し

## サミットで意見交換

大木町

「九州菜種の魅力発信と産地の再興をめざして」をテーマに、菜の花栽培復活の課題を探る「九州菜種王国サミット」(実行委員会主催)が16日、大木町横溝のおおき循環センター「くるるん」であり、県内外から約120人が参加した。

サミットでは、熊本県水俣市久木ふるさとセ



九州菜種王国サミットで講演する熊本県水俣市久木ふるさとセンターの沢畑亨さん

ンター「愛林館」の沢畑亨館長が「田んぼのめぐみを味わい、楽しむ」と題して基調講演。「森は豊かな土壌と酸素を作り、水もためてくれる。森を保全しなければ、わが身の生活に影響が出る」と呼びかけた。

その後のパネルディスカッションでは、NPO法人「菜の花プロジェクトネットワーク」の藤井絢子代表らパネリスト3人が、菜の花栽培の課題と可能性について意見交換した。17日は午前10時

から、大木町の道の駅おおきで、野菜の試食がでる物産市「九州菜種王国産フェア」がある。